

内側にした左手の中指の指頭で額を突き上げる。「頭打ち」のこと。即ちあてはずれ。

あてはまる 指頭を右にさし、掌を上向けた左の人差指の上第一節の上に指頭を前方にさし掌を下向けた右手の人差指の第一節を直角に十形に組む。嵌木組工の二つの木切れがちょうどあてはまる様。

あてられる 五指をまるめに彎曲した手の指頭を額の上につける。夫婦または恋人同志の仲のよいところを見せつけられて、「ダァー」と云って額に手をやるあれ。

後で 後から 事、動作の完了——未来。

右の掌を左の掌の上へ叩き降ろす。動作などが完了したこと。次に「未来」の手まね（右の掌を前へ押し出す）

穴 親指と人差指で輪（穴）をつくり（他の三指は伸ばしたままでよし）、その輪の中を口で吹く。穴の中のうつろさを見せる。

侮る あざと 崇めるとは反対に、指頭を上になした左手の親指を右手の掌で下へ圧えつける。

兄 肉親を意味する前提の手まね（「父母」の項を見よ）があつて、男性を表わす中指を稍々高目に（父母の場合ほど高くしない）さし上げる。

兄嫁 兄—妻。兄（右の中指）に左手の小指を添わせる。

姉 兄の場合と同じ要領。肉親の手まねがあつて、女性を表わす薬指を稍々高目にする。

姉婿 姉—夫。「兄嫁」の要領。

暴れる あらは 悪るさ——粗暴な動作。「悪るさ」の手まねをして、粗暴な動作、即ち両腕の肘を左右に張って、両手を握り拳にして、交互に前へつき出しては手前へ引く運動。

危ない 五指を少し彎曲させてその指頭を胸の上に置く。この時、心持ち少し胸を屈め

るようにする。「不安」「心配」にも通じる手まね。胸騒ぎする、胸を痛めると云う内部表現。

油（膏） 頭髮を撫で降して、その手の親指に他の四指の指頭をつけては離しする。ねばっこい油を扱う手の表情。

溢れる 五指の指頭を前方にさし、掌を右に向けた左手を少しまるく彎曲させて、池の堤か或は器のふちを形どり、それにかこまれるように五指の指頭を左にさし、掌を上向けた右手を水面として、それを上へふくれ上がらせ、堤（器）から溢れ出る描写身振。

あぶれる（仕事に） 頸を手で切るように打って、両腕をだらりと下げて、両手を交互にぶらぶらさせる。首を切られて、仕事なくぶらぶらしていること。ルンペン、失業者ともなる。

あべこべ 両手の拳の一方を前額部に、他

方を後頭につけ、頭の周囲にそって、ぐるりと両手の位置をかえる。帽子を「あべこべ」に被ったこと。

阿呆 五指の指頭を上にはさし、掌を左に向けた右手の親指の指頭を鼻頭の上につけたまま、他の四指を交互に左右にこまかく動かす。これはサーカスのピエロがよくするふざけた身振りで、阿呆（馬鹿）と云うより、人に「阿呆よ」とからかう場合に使う手まね。

尼 「僧侶」の手まねを女性で表わせばよい。

甘い 手についた砂糖をなめる模倣身振り。即ち舌を出して、その上へ掌を持って行きなめるようにする。「砂糖」の手まねに通じる。

余る 五指の指頭を前方にさし掌を右に向けた左手に向かって、五指の指頭を直角にさし、掌を内側にした右手を接近させて、左手